

---

# 五つ魔法陣（スティグマ）

はばねるハイジ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

五つ魔法陣  
ステイグマ

### 【Nコード】

N8017N

### 【作者名】

はばねろハイジ

### 【あらすじ】

はるか昔

その身に宿した

魔法陣をつかい

常に裏の世界にあんやくしていた

魔法陣使いたち（ルーエ）

基本的には1人のルーエには

その身に1つだけ魔法陣

これが原則だ

そのルーエの中でも

災厄最強のルーエ

その身に宿した五つの魔法陣で

さまざまな伝説を残していった女性

その遺伝子を受け継ぐ1人の男子高校生

七日元 なのも と きよつすけ 恭介が

バトルハイスクール生活をただ生き残る

そんな物語……

## プロローグ（前書き）

好き勝手に作者が作ったものなので  
過度の期待はしないでくださいね汗

## プロローグ

(また始まってしまおう・・・)

そんな乾いた声が聞こえて来た

その人物を見たとき『彼』はその姿に違和感と同時に、

あまりの美しさに目を奪われてしまった・・・

どこまでもまっすぐ伸びた銀髪

その派手な髪にも劣らないほど真紅に輝やく真つ赤な瞳

そしてそれを忘れさせるように透きとおった真白い肌

そして、それを背中が大きく開いているドレスで包みこんでいる

そして、その背中には刺青の様なものが五つ見てとれた

よくみると青白い光を放っていてとても幻想的だった。

『彼』がその人物に対してあっけを取られてる時に『彼女』は口を開いた

(そろそろ・・・貴方も目覚めの時)

『彼』はそんな言葉に背中に違和感を感じた

まるで何かが背中に描かれているような感覚・・・

(何が・・・起きて・・・)

『彼』の言葉を遮って彼女は言葉を放ってきた

(気よつけて・・・戦いの影は・・・貴方に・・・迫っている)

それを言い放って彼女は目の前から消えた・・・

『彼』はさっきまで彼女の背中にあつたものが

自分の背中にあると直感でそう思った。

そして『彼』は急な眠気に襲われてその場で

倒れてしまった・・・

## プロローグ(後書き)

更新しないとくゝ (ゝ)ノ||3||3||3||3

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8017n/>

---

五つ魔法陣（スティグマ）

2010年10月9日15時04分発行